

16-V-1977

3. *Ectatorrhinus adamsi* Pascoe マダラアシゾウムシ

VI-1980

4. *Mesalcidodes trifidus* Pascoe オジロアシナガゾウムシ

27-V-1977

5. *Anthonomus bisignifer* Schenkling イチゴハナゾウムシ

V-1980

6. *Curculio pictus* Roelofs ジュウジチビシギゾウムシ

25-V-1979

Rhynchophoridae オサゾウムシ科

1. *Cryptoderma fortunei* Waterhouse オオシロオビゾウムシ

14-VI-1980

2. *Hyposipalus gigas* Fabricius オオゾウムシ

13-V-1977, 28-V-1978, 25-V-1979 (大沢 剛)

兵庫県におけるヨコヅナサシガメの分布

高橋 寿郎

ヨコヅナサシガメの兵庫県からの最初の記録は田中篤夫、殿界和男氏が神戸市道場から記録されたものが一番古いものではないかと考える(昆虫と自然, 3巻, 10号, P. 35, 1968)。併し実際に採集されたのは奥谷禎一博士による篠山農大校庭内で1960年春, さらに4月末頃の校庭のソメイヨシノ, ポプラ, ヤナギなどの大木の腐った穴に集団して越冬している多数の幼虫を見つけることができたというのが一番古いようであるし(奥谷, 1971), 日浦勇氏が川西市笹部のソメイヨシノの大木幹にて多数羽化中のものを採集(1964年4月23日)というものもある(日浦, 1971)。それ以前から県下に分布していたのであろうと考えられるが良くわからない。筆者も古くからカメムシ類の採集調査を続けているが本種の県下での採集は比較的新しい。現在兵庫県下では広く分布しているのではないかと考えられるのであるが特に最近六甲山系では多く見受ける様になった印象が強い。

現在までの県下での産地を一応記録しておく(筆者採集標本所有のものはデータをつけた)。

川辺郡猪名川町槻並(10 exs., 第5令幼虫, 4-V-1979)。川西市笹部〔日浦, 1971,

1977, 仲田, 1978]. 宝塚市千苅 [桂, 1973], 大原野中部 [桂, 1973], 清荒神 (1 ♂, 22-V-1975), 宝塚市内 [奥谷, 1980]. 西宮市名塩 [井上, 1971], 木ノ元 [井上, 1971]. 神戸市再度山 (1 ♀, 10-VI-1979), 烏原 (1 ♂, 24-V-1979, 1 ♂, 1 ♀, 21-V-1980, 1 ♀, 23-V-1980, 1 ♂, 3-VI-1980, 2 ♀, 5-VI-1980, 1 ♀, 6-VI-1980, 4 ♀, 7-VI-1980, 2 ♀, 5-VI-1980, 1 ♀, 6-VI-1980, 4 ♀, 7-VI-1980, 1 ♂, 1 ♀, 11-VI-1980, 1 ♂, 2 ♀, 12-VI-1980, 3 ♀, 14-VI-1980, 3 ♀, 15-VI-1980, 1 ♀, 16-VII-1980, 1 ♀, 16-VI-1980, 1 ♂, 1 ♀, 25-VI-1980, 1 ♀, 27-VI-1980, 1 ex., 第4令幼虫, 23-IX-1980, 1 ex., 第5令幼虫, 6-XI-1980), 藍那 (1 ♂, 14-V-1978), 蓬山峡 (1 ♀, 21-V-1972), 下谷上 (1 ex., 7-XI-1979, 4 exs., 9-XI-1979, 第5令幼虫), 道場 [田中, 殿界, 1968]. 明石市明石公園 (1 ♀, 7-VII-1979). 神崎郡神崎町猪篠 [桂, 1973]. 多紀郡篠山, 農大校庭, 篠山城堀端, 王子山 [奥谷, 1971], 西紀町 [小林, 1979]. 豊岡市滝, 森 [桂, 1973], 九日市 [高橋, 1975]. 養父郡養父町 [小林, 1979], 大藪 [桂, 1973].

以上のように県の中央部から北部にかけても分布しているようだが日本海沿の地域と瀬戸内に面した地域で県の西部 (明石以西) の記録が無いこと、南方系の種にもかゝらず淡路島に記録の無いのも気にかゝる (四国には分布しているとなっている, 日浦, 1977). 中国地方にも今迄記録が出ていない様だったが1980年岡山県に産することが報ぜられている (岡山県和気郡佐伯町, 4-VI-1980, 臥牛, 22号, 山陽新聞, 55年6月27日号). 従って兵庫県西部地区にも分布しているであろうと考えられる。

神戸市内でも道場は別として他の地での産は比較的最近記録があらわれ始めた様に思われる。烏原においても40年近くの調査で得られていなかったが1979年に始めて採集, 1980年には多くいることに気がついた (尤もこの地点近い所なのだが寺の墓地の近くで今迄ほとんど調査したことの無い所だけに古くからこの付近にいたのかも知れない)。毎日池畔のアベマキの樹幹にいるのを見ることが出来, 中には鱗翅類の幼虫を捕食している所も見ている。割合敏感で網など近づけると逸早く飛ぶ。データを見て頂ければわかるが1980年5月21日に始めて見てから6月末日迄ほとんど毎日見られた。従って可成の個体が付近にいたと思われる。一般にはエノキ, サクラ, モミ, カキの樹などにいると言われている。筆者はサクラの樹からの採集は藍那で1度だけである。烏原ではアベマキ, コナラの樹にきているし, 川辺郡ではクヌギの樹にいた。比較的色々の樹にきているのではないだろうか。下谷上では松の樹にいた。

近畿地方には可成り広く分布しているようだし, 兵庫県下においても南方系種の1つとして興味深

く眺めている。尚本種の分布の東限は従来滋賀県彦根城と言われていたが(日浦, 1977), 最近では福井県(大土呂駅)で記録がある(佐々治, 1978)。また本種の生態に就いては長谷川仁氏(1949), 行徳直己氏(1951), 中尾舜一氏(1954)の報文がある。

尚本題から離れるがハリサシガメの神戸市内産に就いて本誌上に記録発表させて頂いたが(Vol. 6, 41・2, 1978), その後神戸市内で次の様に採集出来ている。北区下谷上(lex., 29-VIII-1979), 兵庫区烏原(lex., 26-VIII-1980, 1♂, 1♀, 28-IX-1980, 1♂, 10-X-1980, 1♂, 19-XI-1980)。これでおわりの様に本種は8月下旬から11月中旬近くまで野外で成虫が見られる(9月28日のものは交尾中であり, 11月19日のものは道端を歩いている)。この時期に調べたら案外多く見られる種なのかもしれない。

兵庫県におけるエビイロカメムシ・ ノコギリカメムシの分布

高橋 寿 郎

○ エビイロカメムシ *Gonopsis affinis* Uhler

黄褐色。生時はどちらかと言えば赤褐色をした中形の美しいカメムシで神戸市内ではススキの上に普通に得られるが県下での分布は必ずしも多く知られていない。新成虫は8月後半羽化するので一般的には8月末から9月に多く眼につくということで案外知られていないのかとも思うが雑草の根際等に成虫態で越冬し5, 6月頃でも注意すれば見ることが出来る。

本種の生態並びに卵・幼虫の各令期に就いては小林博士の貴重な報文がある(四国昆虫学会々報, 2巻, 1号, P. 7-16, 1951, 新昆虫, 7巻, 7号, P. 25-27, 1954)。宮本博士はヤニサシガメに刺されて産卵中絶した面白い記録を発表しておられる(昆虫, 30巻, 3号, P. 216, 1962)。

分類学的研究は石原保博士が詳しくされている(昆虫界, 9巻, 91号, P. 621-636, pl. 5, 6, 1941)。

藤本義昭氏が台湾で採集された本種1♂, 2♀(1♂, 30-IV-1979, 台中市北区大抗, 1♀, 30-III-1980, 屏東県Olanpi, 1♀, 1-VI-1980, 懇丁公園産)を送って頂いているが兵庫県産よりやや大きく赤紫色色がはっきりした美しい標本である。

現在わかっている兵庫県下の産地を次に記録しておく。